

後編

5. PACの登場

二大政党の危機は、新しい政党の結成を促した。その中で最も重要なのは、ルイス・ギジェルモ・ソリスの率いる**市民行動党**（Partido Acción Ciudadana : PAC）である。

2000年に元 PLN 幹部によって設立された PAC は、1982年以前の社会民主主義政策を復活すると訴えた。このため、PAC は左派政党と見なされてきたが、最初からずっと左翼ではない。むしろ右傾化した PLN の主流派に対する「正統派」と考えるべきだろう。

2002年、PAC は大統領選挙で 26.2% を獲得した。このため首位の PLN と 2 位の PUSC は過半数獲得が不可能となり、決選投票で対決することを余儀なくされた。

その後、2006年に、PAC は大統領選挙の勝利に近づいたが、最終的には PLN のアリアス前大統領に敗れた。

PLN とその背後の勢力は PAC を弱体化させるために、1990年以降減らし続けていた社会的投資を再開し、公共部門の給与を増額した。この戦略により PLN は 2010年の選挙で 46.9% を獲得し、2006年より 6%ポイント増やした。

アリアスは大統領に就任したが、つづげざまに汚職スキャンダルが発生し、評判を下げた。2014年、PLN は決選投票で PAC 候補のソリスに敗北した。

ソリスは「穏健な新自由主義政策と社会的投資」という PLN スタイルの伝統的方針を維持したが、強硬なビジネス界はそれを許さなかった。お抱えメディアと連合軍を組んで PAC 攻撃を開始した。

PAC 政権を悪魔のように非難し、最大の支持基盤である公務員を税金と泥棒呼ばわりし、犯罪者扱いする系統的なキャンペーンを洪水のように流し始めた。

ソリスは精一杯抵抗した。かれは累進税率の低減案を拒否した。そして 16 年には金持ちたちへの反撃を開始した。

政府は、脱税が年間 50 億ドル近くに上り、国内総生産の 8%に達すると非難した。しかし大企業はこれを産業界への侮蔑と捉え、ソリスを見放した。

6. 異例づくめの 2018 年選挙

2017 年の初め頃には、メディアのキャンペーンが功を奏し、PAC の支持は失われた。かくして PLN が選挙に楽勝すると思われていた。

しかし経済政策をめぐる PLN は紛糾、大統領候補指名は難航した。アリアス前大統領派は議員アントニオ・アルバレスを支持、反アリアス派は元大統領フィゲレスを支持した。党大会での投票の結果、アルバレスが指名を勝ち取ったが、フィゲリスタはアルバレス支持を拒否した。

2017 年末、世論調査では大統領選が、最終的に PLN と他の党との決選投票になるものと予想されていた。

しかし、その後すべてが変わった。2018 年 1 月、米州人権裁判所が「結婚の平等」（同性婚）を支持する画期的な判決を下した。この決定は、コスタリカからの 2016 年の要請に端を発したものであった。コスタリカ政府は同性婚を容認する立場から、同性婚に対する国家の義務に関する指針を求めていた。

ところが、この米州人権裁判所の決定に対し、国内カトリック教会から強力な抗議が巻き起こった。これに米国から進出したプロテスタント福音各派が協賛し、一大宗教プロパガンダが組織された。

2018年総選挙は、19世紀末以来の**宗教選挙**となった。小さな福音派の党である Partido Restauración Nacional (PRN) がキャンペーンの先頭に立った。

PLN と PUSC は PRN との論争に及び腰の態度を取り続け、有権者の支持を失った。宗教の介入を嫌う多くの人々は反宗派主義の立場をとる PAC に投票した。

2018年2月初旬、宗教戦争の津波がコスタリカを襲った。PRN が第一次投票で首位を占めたのだ。決選投票は PRN、PAC、PLN、PUSC の4つの勢力の組み合わせによって決することになった。

PRN は PLN との同盟を目指したが、PLN はこれに乗らなかった。一方で PAC は PUSC との選挙合意に成功した。これにより PAC と PUSC の連合政権が誕生することになった。

しかしそれは PAC にとって逆に命取りとなった。もはや PAC は、かつてソリスの訴えた組織ではなく、大地主や金融層のしもべとなっていた。

新政府の大統領となったカルロス・アルバラードは、PUSC も顔負けのゴリゴリの新自由主義を推進した。新政府は中間層と労働者階級を犠牲にしてビジネス寡頭制を支持し、収入と権力を山分けした。

7. 22年大統領選を前にした各党の動き

2020年に、政府は予想外の同盟を発見した。「新型コロナ」である。新型コロナは、不況を引き起こし、失業率を急上昇させたが、それに対する大規模な大衆闘争を最小限に抑えたのである。

まず PLN の動き。

多くの党员を集めるフィゲレス派は、2022年の選挙で再びフィゲレスの再起を求めて動いた。これに対しアリアス派指導者は、大会を開くことなしで PLN の候補者を選ぼうと運動を開始した。

しかしそれは失敗し、6月6日に PLN は候補者選出の選挙を実施した。党内選挙と言っても合計43万人が投票し、国の選挙人名簿の12パーセントに相当するマンモス選挙である。

この選挙ではフィゲレスが37%で首位に立ち、2002年の大統領選挙に出馬したロランド・アラヤ（アリアス派）が27%で続いた。さらに他の3人の候補者はあわせて36パーセントを獲得した。

フィゲレスはすぐに3,4,5位の3候補を取り込んだが、アラヤは PLN ではなく独自政党のコスタリカ正義党を結成、そこから立候補することとした。

一方 PUSC も離合集散を繰り返した。最初は元々党の一部だった極右派との選挙同盟を模索した。それは強硬な新自由主義と福音主義勢力を旗印とするグループだった。しかし連立工作は失敗に終わり、PUSC は候補者決定のための大会を実施することになった。

大会は6月27日に行われ、3人の候補者が出馬した。123,161人の投票者の内55.2%がサボリオ候補を支持した。

もう一つの有力政党で現与党の PAC は、8月22日に大会を開催した。大会は僅差で穏健な新自由主義者のウェルマー・ラモスを大統領候補に選出した。敗

れた対立候補はラモスを支持するか他党との連携を模索するかの気持ちを明らかにしていない。

8. いくつかの政治的不確定要素

PAC をふくめた 3 つの政党が、軒並み支持率を低下させている。一方で、27 の政党が大統領選挙に出馬するために登録した。これは、コスタリカの歴史上最大の数である。

2022 年の選挙はロシアンルーレットに似ている。一発の事件やスキャンダルが、勝負を決定する。

また幸運にも大統領選に勝利したとしても、立法議会でかなりの数の議席を獲得しなければたちまち立ち往生する危険がある。

この選挙では、**左派政党にはほとんどチャンスがない。**

1980 年代に「人民連合」政権が成立したが、内部紛争により崩壊消滅した。1990 年代には新左翼政党が出現したが、労働者階級からの支援がほとんどない知識人政党で、影響は限られていた。2014 年に左翼連合「拡大戦線」が 9 議席を獲得したが、まもなく影響力を失い、2018 年には 1 議席しか確保できなかった。

現在の政治情勢は、福音派や強硬な新自由主義者などの極右保守勢力にとって非常に有利になっている。

こうして、ラテンアメリカで最も古く、最も社会的に進んだ民主主義国の 1 つコスタリカは、人口の大多数の生活条件の悪化、ビジネス寡頭制の強化、Covid-19 の大流行のはざまに陥れている。

そして、政治の主流の政治は、権力のより限られた層への集中と、収入のより不平等な分配を約束するだけの政治に絡み取られている。